

1. 第2回委員会の課題と第3回委員会の検討内容

1) 解析モデル精度を高めるための境界条件の検討

一定雨量継続条件と実雨量条件による降雨浸透状況の違いを確認する。

同一期間の雨量（例えば2000年1月～2001年7月）を日平均雨量として与えた場合の計算結果と実雨量で与えた計算結果は、降雨の与え方によって地盤への浸透量が変化することが考えられるためその結果を比較検討する。

北側境界条件の設定方法の検討(流入無し条件と水位固定条件の比較)。

解析領域北側の境界条件を次の2種類としてヒストリーマッチング結果を比較する。

流入無し条件・・・境界の外側から地下水の流入がなく、境界部では地下水位が変動する。

水位固定条件・・・境界の外側から地下水が流入する。境界部の水位は一定である。

2) 新たな検討課題

渴水期の影響予測について

渴水年の1994年降雨記録を用いて影響を試算する。

水位低下時の浅層土（第1帯水層相当層）における含水量の変化を解析的に求める。

< 解析方法 >

影響予測結果をもとに水位低下量と低下継続時間を探しておき、その条件の元で、土中の含水量がどの程度変化するかを断面2次元飽和・不飽和浸透流解析により求める。

< 地盤条件に関する事項 >

既往の物理試験結果をもとに類似した土の不飽和特性曲線を利用する。

予測解析の実用性を高めるための条件設定

